

## 『動物園のアイドルになろう』

## 『デジタル放送』、もうこの言葉には慣れたらどうか？

地上デジタル放送、BS デジタル放送、CS デジタル放送、デジタルハイビジョン、などデジタルのつく言葉が溢れてきている。「耳にしたことがない」、という人はいないのではないだろうか。もし、あなたがまだ「デジタル放送」という言葉にピンとこなかったら、少し調べてほしい。予定ではあと6年、2011年には現在の地上波アナログ放送が終わってしまうのだ。「デジタル放送」という言葉にピンとこないなら、「アナログ放送」という言葉にもピンとこないかもしれない。今まで当たり前のように観ていたテレビ放送を今では「アナログ放送」というつまり今まで当たり前前に観ていたテレビは2011年に終了することが決まっているのだ。これはすでにどうしようもない。できることは、そのときになって慌てないよう理解と準備をすすめることだろう。

## よくある勘違い。

『「デジタル」は綺麗で「アナログ」は汚い。』『「デジタル」だから綺麗なはず。』

これは大きな間違いだ。デジタル放送は現在の放送に「より」とか「さらに」などがついたオプション的放送ではない。先にも書いたが、今まで主流だったアナログ放送は終了してしまう。それにとってかわって現れた、今後主流になる今までと別の「方式」を利用した放送なのである。「アナログよりも」のではなく、種類が違うのだ。画質に限って言わせてもらえば、標準画質のデジタル放送より、ハイビジョン画質のアナログ放送の方が綺麗だ。綺麗かどうかは、走査線（画像をディスプレイに描き出す際に、画面上を走査する軌跡のこと）の本数によるのである。この、走査線が多ければ画質が綺麗になり、多い走査線に対応しているのがハイビジョン対応テレビである。デジタルチューナー内蔵テレビではない。デジタルチューナーは内蔵していてもハイビジョンに対応していないテレビもある。

想像してみてください。「デジタルカメラ」と「アナログカメラ」（あえてこの言い方にさせて頂きたい。むしろ普通のカメラのことである）。デジタルカメラで撮ると綺麗で、普通のカメラで撮ると汚い、そんな答えは誰からも返ってこないと思われる。プロの現場では今でもデジタルでないカメラが使われている。もちろんプロの写真家さんなら、「綺麗」「汚い」といった表現だけでない、それぞれの味を活かした美しい写真をとって下さるだろう。それはそれぞれの種類が違うからである。1点、一般人の感覚でその2つに差を感じる部分があるとすれば、「デジタル」は便利だ。ここ最近では、デジタルカメラプリンタに対する写真屋とプリンタメーカーの便利を前面に売り出したCMをよく目にする。確かに、便利そう。私の日常生活に写真を撮る機会がそうあるものかという、「ない」が、デジタルカメラを買おうかしらと思ってしまう。プリンタも必要だ。自分でするのも面倒だからお店でCDにもやいてもらおう！。

と話がズレたが、この「便利」。

これは、「デジタル放送」にも言える。デジタル放送にもアナログ放送に比べ便利な部分が多々ある。アナログ放送では、今やっている番組の詳細情報（出演者や簡単な内容・終了時刻など）を、その番組を見ながら同じテレビ画面上で確認したり、番組を観ながら天気予報を知るなんてできなかった。天気予報を見るために、番組が終わったあとCMや短いニュース（最後が切れたりするとキャスターの人が叱られてしまうのだらうな、など勝手な心配をしてしまう「アレ」である）をそのまま見ていた、という経験は誰にもあるはずだ。

先ほど、CMについて少し触れたが、このCMの影響というのは、かなり大きいと思う。地上デジタルチューナー内蔵テレビのCMでは映像美を押し出したCMが多い。これでは、「デジタル＝綺麗」と思ってしまうのも無理はない。デジタルカメラ対応のプリンタやデジタルカメラプリンタ対応の写真屋さんのように「便利さ」を伝えるCMならもっと違う捉え方をされていたかもしれない。かといって、先ほど簡単にあげた便利な部分は「デジタル放送の特長」の一部であり「テレビの特長」ではないので、「便利さ」を押し出すテレビのCMなどできるわけがないのだ。逆に言えば、つまり、そのCMが宣伝している美しい映像に対応するのは「テレビの特長」なので、デジタル放送全般に結びつけるのは安易なのである。もちろん、「デジタル放送」の特長の中に、「高画質」「高音質」というものがある。デジタル放送の技術を利用して番組を送信することで、今まで表現できなかった高画質や高音質のものを送信できるようになったのは事実である。そういった高画質の番組を、映像の美しさをアピールしているテレビを持っていれば、テレビ局や映画スタッフが作った本来の画質（またはそれに近い画質）で観ることができる。それは素晴らしいことである。映画好きな人など映像に興味のある人間なら感動できる進歩だ。ただ、間違えないでほしいのは、現在はまだすべてのデジタル放送の番組がそうではない。現状はまだ標準画質の物も多くある。その番組を高画質に対応したテレビで観たところで、元が標準なのだから綺麗に見えるはずがない。デジタル放送で古い名作映画がやっていたとして、ホームシアターを駆使した環境で鑑賞しても、画質や音声は綺麗になるわけではない。

さて、そろそろまとめよう。ではアナログ放送が終了するまでに何を準備すればいいのか。

デジタル放送を観る（録画する）為に必要なもの

「さらに」高画質を楽しむ為に必要なもの

「さらに」高音質を楽しむ為に必要なもの

デジタル放送用のアンテナ（TVなら必要なし！）

デジタル放送対応チューナー（デジタルコースで1台ついてきます。）

ハイビジョン対応のテレビ（端子の規格がD3以上のもの）

5.1サラウンドに対応したオーディオなど

この「さらに」の部分ではデジタル放送を観られる環境があれば当たり前についてくるものではない。別に必要なものである。

「さらに」が必要ない人については、例えばZTVでデジタルコースを契約すればチューナーがついてくるのでテレビを買い換える必要もない。もちろん、コースに基本についてくるチューナーは1台なので、たくさんのテレビを持っている人はその分チューナーを追加するなり他の部屋はテレビを買い換えるなり自宅のテレビたちと向き合って検討する必要は出てくる。

そして、見落としがちなのが録画機器たち。テレビを買い換えることは理解できている人でも、ビデオデッキやDVDデッキが使えなくなることが理解できなかったりしている。今までのアナログ放送が終了してしまうのだ。そのチューナーしか内蔵していないものは、映像を画面に出すものでも映像を残すものでも、使えなくなるのは同じである。

2011年。そう遠くない。レジャーパンダも立つ時代である。「デジタル放送」という言葉にピンときていない人も、知っているが知識は曖昧だという人も、そろそろ検討に向けて腰をあげてみてほしい時期かもしれない。